

第70番 本山寺

●香川県三豊市豊中町本山甲1445
☎0875-62-2007
●宿坊／なし



第71番 弥谷寺

●香川県三豊市三野町大見乙70
☎0875-72-3446
●宿坊／なし



沿線の見どころ



枯木地藏堂

本山寺建立の大師伝説と結びついた小堂。弘法大師が祖谷山から切り出した用材を運ぶ途中、天邪鬼のイタズラによりその中の一本を落としてしまった。それを見つけた土地の人々は小堂を建て、地藏を安置して祀るようになったという。今でも小堂の裏を覗くと、地藏の下に古柱が祀られている。



沿線の見どころ



ふれあいパークみの

弥谷寺のふもとにある道の駅。駅内にある「天然いやだに温泉大師の湯」は手ぶらで立ち寄れる手軽さが人気。毎日お湯を完全入れ替えし衛生的。広々とした浴槽でゆったりとくつろげる。プール利用の場合は、水着と水泳帽の持参が必要。アスレチック公園も隣接しており、家族で1日遊べるスポットだ。



境内の見どころ



五重塔

寺の創建当初に弘法大師が建立。明治43年(1910)に、損傷が激しく見る影もない有様だった塔を復興。当時の住職であった盲目の頼富実毅僧正は、霊場巡りで59番国分寺を出て歩く途中、霊験を得て目が見えるようになった。その恩返しのために復興したと伝えられている。現在修復工事中(2018年まで)。



仁王門から境内全体を見渡すことができる

第70番

七宝山 持宝院 本山寺

しっぽうざん じほういん もとやまじ

弘法大師による「一夜建立」の寺

歴史・全体像

大同2年(807)、本山寺は平城天皇の勅願で弘法大師が一夜ほどの短い間に建てたと伝えられることから、「一夜建立」の寺として知られている。この時大師は本尊の馬頭観音、脇士の薬師如来と阿弥陀如来を一刀三礼にて刻んだ。阿弥陀如来は「太刀受けの弥陀」とも呼ばれていて、その由来は戦国時代にさかのぼる。長宗我部元親が讃岐に攻め入った時、本山寺にも軍勢が押し寄せた。当時の住職が境内に押し入ろうとする兵を押し留めたが、斬られてしまう。兵が境内に入ると、阿弥陀如来の右の肘から血が滴り落ちていた。驚いた兵が境内から退いたことで、本山寺は兵火を免れたという。

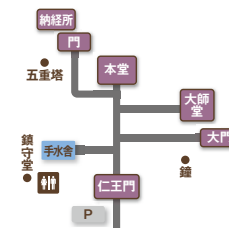
境内

仁王門を入ると、正面にどっしりと構える本堂と五重塔が見え、その景色は壮観だ。国宝に指定されている本堂は、寄棟造り、本瓦葺きの重厚な建物。正安2年(1300)に建てられた鎌倉時代の傑作とされている。四国八十八ヶ所霊場で唯一の本尊、馬頭観音は、馬が盛んに草を食べるように、人間が持っている悪心や欲心、怒り、悩みをなくしてくれるという。それにちなんで、本堂右手に建つ大師堂の隣には、実物大の2頭の馬の像が立っている。



建立当時の姿を残す本堂

御詠歌／本山に誰か植えける花なれや春こそ手折れ手向けにぞなる
本尊／馬頭観世音菩薩
真言／おん あみりとつ どはんばうんばつた そわか
宗派／高野山真言宗
開基／弘法大師



日本遺産「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業／発行：四国遍路日本遺産協議会／制作：(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に

2017年3月作成

歩き遍路のための「四国遍路」巡礼マップ

第70番 本山寺



第71番 弥谷寺



日本遺産

「四国遍路」巡礼マップ

第70番 本山寺 第71番 弥谷寺



11.3km

※赤い点線は通路道の一例です

《凡例》

- 弘法大師ゆかりの寺院
- ゆかりの神社
- ゆかりの場所
- ファミリーレストラン
- コンビニエンスストア
- 宿泊施設
- 通路小屋
- 休息所
- 店舗・スーパード
- コインランドリー
- 公衆トイレ
- 医療機関
- 道の駅
- 温泉
- 学校

へんろみち周辺の宿泊施設

- ほ志川旅館 0875-72-5041
- ふれあいパークみの 0875-72-2601



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子版(電子国土基本図)地名情報を使用した。(承認番号 平28情使、第132号)」